



月刊バイブル（世界のベストセラー、聖書のトリビア）

第18号

発行:レムナントキリスト教会

価格:100円（送料込みで200円）

〔目次〕

- ◎聖書からのメッセージ:キリストは私たちの罪のために死なれた エレミヤ
- ◎高ぶりを打ち砕く:進化論の誤り(14)「ネアンデルタール人のDNAは現代人と変わらない」
- ◎箴言から学ぼう!:贈り物
- ◎詩篇を読む:御顔を隠す
- ◎キリストを信じた体験談:私の間違いによる災難の中にあっても助けて下さる神様の憐れみ ミカエル
- ◎聖書に関する偉人のことば:G・E・レッシング
- ◎ご案内:聖書贈呈、聖書通信講座

<聖書からのメッセージ>

キリストは私たちの罪のために死なれた by エレミヤ

〔聖書箇所〕I ペテロの手紙2:22-24

2:22 キリストは罪を犯したことがなく、その口に何の偽りも見いだされませんでした。

2:23 ののしられても、ののしり返さず、苦しめられても、おどすことをせず、正しくさばかれる方にお任せになりました。

2:24 そして自分から十字架の上で、私たちの罪をその身に負われました。それは、私たちが罪を離れ、義のために生きるためです。キリストの打ち傷のゆえに、あなたがたは、いやされたのです。

今回は「キリストは私たちの罪のために死なれた」として、このことを見ていきたいと思えます。

<十字架はキリスト教のシンボル>

キリスト教と言えば、十字架がそのシンボルとして取り上げられます。さて、それでは、その十字架

とは何かと言えば、恐ろしいことにそれは死刑の道具なのです。しかし、このこと、キリストが十字架にかかって死なれたことが、聖書的には大きな意味のあることなので、聖書は度々十字架について語るのです。

ところで、なぜ、キリストは十字架にかかり、命を失ったのでしょうか？この件に関して、上記テキストでペテロは、「**十字架の上で、私たちの罪をその身に負われました。**」と語ります。それは、私たちの罪のためであることを語るのです。2000年前のキリストが現代に生きる私の罪を負って死んだ？分かるような、分からないようなことばかも知れませんが、とりあえず、聖書はそう主張していることを覚えてください。

<全ての人は罪を犯している>

罪ということを考えてみましょう。聖書で言う罪とは、必ずしも刑務所へ入るような犯罪のみを語っているわけではありません。具体的にはたとえば、以下の十戒のような神の戒めを破ることが罪なのです。

キリストは私たちの罪のために死なれた エレミヤ

- ①神のみを礼拝する。
- ②偶像を拝まない。
- ③神の名をみだりに唱えない。
- ④安息日を守る。
- ⑤父母を敬う。
- ⑥殺さない。
- ⑦姦淫を犯さない。
- ⑧盗まない。
- ⑨偽証をしない。
- ⑩他人の持ち物をむさぼらない。(欲しがらない)

このような戒めを全て守り、一度でも破ったことのない人が罪のない人なのですが、さて、私たちはどうでしょうか？残念ながら我々には完璧に一度も戒めを破らない、とはいかないのではないのでしょうか？聖書も以下のようにそのような人、罪のない人は存在しないことを語ります。

〔聖書箇所〕ローマ人への手紙3:9,10

3:9 では、どうなのでしょう。私たちは他の者にまさっているのでしょうか。決してそうではありません。私たちは前に、ユダヤ人もギリシヤ人も、すべての人が罪の下にあると責めたのです。

3:10 それは、次のように書いてあるとおりです。「義人はいない。ひとりもない。

このことばのように、全ての人々が罪の下におり、義人（罪のない人）はいない、ひとりもない、ということが人間世界の現実なのです。

<罪の報酬は死>

さて、このように、誰にも彼にも罪があるとして、それなら、自分も仕方がない、たとえ罪があっても、仕方がない、このままで良い、罪の問題など解決しないで良いか？と言うと、どうもそうではないようです。赤信号みんなで渡れば怖くない、というわけにはいかないようなのです。と言うのは、聖書は、私たちがこの人生にある間に、罪の問題を解決することを勧めており、もし、そうしないと、死後、自分で罪の値を払うようになる、罰を受けるようになることを語るからです。以下を見てください。

〔聖書箇所〕マタイの福音書5:25,26

5:25 あなたを告訴する者とは、あなたが彼といっしょに途中にある間に早く仲良くなりなさい。そうでないと、告訴する者は、あなたを裁判官に引き渡し、裁判官は下役に引き渡して、あなたはついに牢に入れられることとなります。

5:26 まことに、あなたに告げます。あなたは最後のコドラントを支払うまでは、そこから出ては来られません。

この箇所は、たとえを通して私たちが自分の人生の途上にある間に、告訴する者、すなわち神と会い、罪の問題を解決するよう、勧めている箇所です。もし、そうしないと、死後裁判に会い、また、牢に入る、すなわち、罪の罰を受ける、そして、その全ての罪に見合う罰を受け終わるまで、死後の裁きや、罰から逃れられないことを語っている箇所なのです。さらに、以下も見てください。

〔聖書箇所〕ヨハネの黙示録20:12-15

20:12 また私は、死んだ人々が、大きい者も、小さい者も御座の前に立っているのを見た。そして、数々の書物が開かれた。また、別の一つの書物も開かれたが、それは、いのちの書であった。死んだ人々は、これらの書物に書きしるされているところから従って、自分の行ないに応じてさばかれた。

20:13 海はその中にいる死者を出し、死もハデスも、その中にいる死者を出した。そして人々はおのおの自分の行ないに応じてさばかれた。

20:14 それから、死とハデスとは、火の池に投げ込まれた。これが第二の死である。

20:15 いのちの書に名のしるされていない者はみな、この火の池に投げ込まれた。

ここでは、死後、いのちの書に名が記されていない者、すなわち罪の問題を解決していない者は皆、火の池に投げ込まれることが書かれています。脅かすわけではありませんが、このようになってからでは遅いので、私たちは今、この人生の途上にある間にこのこと、罪の問題を解決すべきなのです。

<罪が赦されるためには>

誰も死後、火の池になど入りたくはないので、是非生きている間に、この罪の問題を解決したいものです。さて、我々がもし、神の前に罪があるとして、その罪はどのようにして解決し、赦されるのでしょうか？むしの良い話ですが、私たちが罪など何もない者のように、なれるのでしょうか？このことに関して聖書の記事を見てみましょう。

〔聖書箇所〕レビ記6:2-7

6:2 「人が主に対して罪を犯し、不実なことを行なうなら、すなわち預かり物や担保の物、あるいはかすめた物について、隣人を欺いたり、隣人をゆすったり、

キリストは私たちの罪のために死なれた エレミヤ

6:3 あるいは落とし物を見つけても、欺いて偽りの誓いをするなど、人が行なうどれかについて罪を犯すなら、
6:4 この人が罪を犯して罪に定められたときは、そのかすめた品や、強迫してゆすりとった物、自分に託された預かり物、見つけた落とし物、
6:5 あるいは、それについて偽って誓った物全部を返さなければならない。元の物を償い、またこれに五分の一を加えなければならない。彼は罪過のためのいけにえの日に、その元の所有者に、これを返さなければならない。
6:6 この人は主への罪過のためのいけにえを、その評価により、羊の群れから傷のない雄羊一頭を罪過のためのいけにえとして祭司のところに連れて来なければならない。
6:7 祭司は、主の前で彼のために贖いをする。彼が行なって罪過ある者とされたことのどれについても赦される。」

ここでは、人の預かりものや取得物を盗んだり、偽証するといった罪に関して述べられています。これらは罪であり、人間の前にも神の前にも罪です。それでは、これらの罪を犯した人には、もう救済処置がなく、罪を赦されることはなく、死後、そのまま火の池に直行か、と言うとそうではなく、罪は赦されるとして、その赦される手段に関して書かれています。

その方法として、まず盗んだものは、迷惑料を加えて持ち主に返さなければならないことが書かれています。これは、対人に対しての償いです。さて、それと共に神の前に罪を赦していただく必要があります。そしてそのことに関連して、「雄羊一頭を罪過のためのいけにえ」としてささげることが命じられています。

いけにえをささげるとは、具体的には祭壇の前で羊を殺し、血を流すことなのです。かわいそうですし、羊の命が失われますが、しかし、ささげる時に、その人の犯した罪は赦されるのです。この行為により、「**彼が行なって罪過ある者とされたことのどれについても赦される。**」と書かれています。ですので、このことにより、この罪を犯した人は無罪放免となり、神の前にあたかも何も罪などない者のように見なされ、死後、火の池に入るなどという心配をする必要がなくなるのです。このことはすごいことです。聖書で神がこのように命じておられる以上、この方法は有効であり、実際にこのようにして、旧約時代の人々は皆、神の前に罪を赦され、その罪を問われなくなったのです。

<キリストは神の子羊>

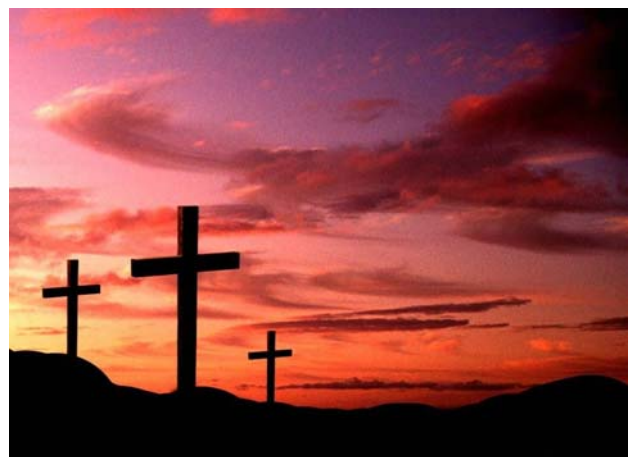
さて、とは言っても、現在のキリスト教会では、祭壇に羊を連れて来て、ささげたりはしていません。それでは、どのようにして、今の私たちの罪は赦されるのでしょうか？それは、神の小羊であるキリストの死により、私たちの罪は赦されるのです。ヨハネはキリストをこう呼びました。

[聖書箇所]ヨハネの福音書1:29

1:29 その翌日、ヨハネは自分のほうにイエスが来られるのを見て言った。「見よ、世の罪を取り除く神の小羊。」

キリストは神の羊なのです。このことばを通して、キリストの意味合い、その死の意味合いが理解出来るでしょうか。それは、旧約聖書の時、罪のためや贖いのために献げられた羊と同じ意味合いなのです。すなわち、私たちの罪を赦すための羊が一匹ささげられ、その羊こそ、十字架にかかって命を失ったイエス・キリストである、そう聖書は語っているのです。そして、それが、冒頭のペテロのことば、「**十字架の上で、私たちの罪をその身に負われまし**た。」とのことばの意味合いなのです。

このキリストを信じる人は、その罪を赦され、罪の結果による死後の罰やさばきから免れることを知りましょう。



キリストの十字架により、罪が赦される

高ぶりを打ち砕く進化論の誤り(14)ネアンデルタール人のDNAは現代人と変わらない

人はどこから誕生したのか？その問題に関して聖書は「神が人を創造した。」と述べます。しかし、日本においては、学校で進化論が教えられており、人は猿から進化したと説きます。では、その進化論は正しいのか？それをこのシリーズで見えています。

進化論で、人類の祖先として語られていたものとして、ネアンデルタール人があります。以前は旧人と呼ばれ、人類の祖先だと言われていたのです。進化論の問題、また、その根拠の薄さは、証拠がないことです。たとえば、人は猿から徐々に進化して段階を経て猿になった、と進化論では言うのですが、肝心の証拠がありません。進化論が、もし、正しいなら、当然存在するべき猿と人との中間種が存在しないのです。

何としてでも、証拠の化石を探さなければならぬ進化論者が、必死になって探し出してきた「証拠」のひとつが、ネアンデルタール人なのです。これこそ、猿と人との中間種である、現代人になる前の旧人だ、というふれこみだったのです。

そのネアンデルタール人の骨格の写真がありますので、見てください。写真の左側が、ネアンデルタール人、右側が現代人です。率直に言ってどうでしょうか？現代人の骨格と大きな違いはないように見えるのですが、どうでしょうか？

そのような指摘が今までなされてきたのです。さて、このように指摘されて説明に困ったためか、進化論者は最新のDNA技術に活路を見出そうと試みました。発掘されたネアンデルタール人の骨からDNAを抽出し、現在の人類のDNAと比較することによって、進化の痕跡を見出せるのではないかと、そんな希望を持ったのです。そして、結果はどうなったのでしょうか？

2010年、ネアンデルタール人のDNA解析のレポートが、一流科学雑誌である“サイエンス”に発表されました。解析の結果、そのレポートの中で、次のように述べられています。**「ネアンデルタール人は、ネアンデルタール人が互いに親戚関係にある以上に、現在の人類と親戚関**

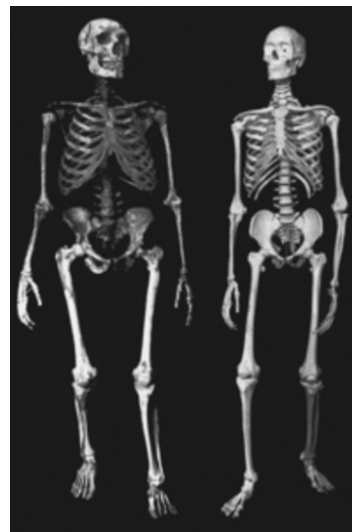
係にある。」

要するに、ネアンデルタール人と現代の人類との間にDNA上に大きな差がない、逆にずっと近い関係であることが判明したのです。DNA的には、ネアンデルタール人と現代人とを区分する意味がないことが判明してしまったのです。

また、進化論の立場を取っている有名雑誌、“ナショナルジオグラフィック”（2012年10月号）も、同じことを述べます。ここでは、進化論学者によって、**「親戚関係を持たない現代人2人の遺伝コードを比較すると、数百万単位で異なる部分が存在する。ところが、ネアンデルタール人と現生人類のゲノムには、平均でおよそ10万ヶ所しかない。」**という事実が記載されています。

要するに、ネアンデルタール人のほうが、親戚関係を持たない現代人2人の間より、遺伝コード的には現代人より近いということなのです。もっとはっきり言えば、遺伝子コード的に見るなら、ネアンデルタール人は現代人と何ら変わらない、という結論になるのです。

すなわち、遺伝子の研究の成果は、進化論を擁護するものではなく、進化論が誤りだったことを述べているのです。



左:ネアンデルタール人の骨格
右:現代人の骨格

箴言から学ぼう！：贈り物

〔聖書箇所〕箴言18:16

18:16 人の贈り物はその人のために道を開き、高貴な人の前にも彼を導く。

今まであまり意識したことは無かったのですが・・・聖書の所々に「贈り物」ということばが出てくる、ということに今回気付かせていただきました。上記聖句においても、「贈り物」ということが言われています。

たしかに、この世の中でも・・・少しことばは変わりますが、同じような意味合いで、「プレゼント」ということが言われますよね？たとえば、時折、スーパーやデパートの催事場とかで、「今日は〇〇の商品がお買い得ですよ。この商品を購入された方には、今回につき、サービスで、もうひとつプレゼントしますよ～」なんていう風なことを耳にすることがあります。そして、こういったものも、素晴らしいプレゼントだと思いますし、もしも、実際にもらえたら嬉しいですよね？！

そして、聖書においても、「贈り物」のことを奨励しています。「その人のために道を開き、」とか「彼を導く。」という風に、良いことが言われています。ですので、「贈り物」をすることに、ポイントがあるのではないかなあ、と思います。そして、「贈り物」をするメリットについても書かれていますので、よろしければ、見てみましょう。

〔聖書箇所〕箴言21:14

21:14 ひそかな贈り物は怒りをなだめ、ふところのわいろは激しい憤りをなだめる。

「ひそかな贈り物は怒りをなだめ」とありますように、ひとつは、「贈り物」によって、「怒り」をなだめることが出来る、ということ言われております。細かい話で恐縮なのですが、「なだめ」のところは、KJV訳では、「穏やか」とあります。もうひとつは、「激しい憤りをなだめる。」とありますように、「激しい憤り（KJV訳：強い怒り）」をも、なだめることが可能となる、ということが言われています。このように、「贈り物」は、いずれも、素晴らしい効果をもたらす、ということがお分かりになりますよね？！ゆえに聖書を書かれた神さまは、私たちにこのことをお勧めしていらっしゃるのではないかなあ、と思います。

では、最後に、どんな「贈り物」をしたら良いのでしょうか？そのことについて、聖書から見ていきたいと思えます。

〔聖書箇所〕ピリピ人への手紙4:14-17

4:14 それにしても、あなたがたは、よく私と困難を分け合ってくださいました。

4:15 ピリピの人たち。あなたがたも知っているとおりに、私が福音を宣べ伝え始めたころ、マケドニヤを離れて行ったときには、私の働きのために、物をやり取りしてくれた教会は、あなたがたのほかには一つもありませんでした。

4:16 テサロニケにいたときでさえ、あなたがたは一度ならず二度までも物を送って、私の乏しさを補ってくれました。

4:17 私は贈り物を求めているわけではありません。私のほしいのは、あなたがたの収支を償わせて余りある霊的祝福なのです。

これらのことばは、使徒（聖書のことばについてお話しする人）パウロが、ピリピの教会の人たちに手紙の中で言われたことですが・・・14～16節にありますように、ピリピの教会の人たちは、パウロが困っていたときに必要なものを与えて、助けてくれました。なので、ひとつはこんな風に・・・パウロのように困っている人がいたら、何らか出来る範囲で、助けの手を差し伸べていくことを言われているのだと思います。

しかし、もう一面、パウロは、17節で、「贈り物もありがたいし、嬉しいけれども・・・でも、実際に欲しいのは、霊的祝福なのです。」ということ言われています。「霊的祝福」のところは、KJV訳では“fruit”（果実）という単語が使われています。

じつは、“fruit”（果実）ということばは、「御霊の実」に通じるのです。その根拠に関しては今回お話しさせていただくにはスペースが足りなくなってしまいますので、何か機会がありましたら、いつかきちんと述べさせていただきますと思いますが・・・そして、「御霊の実」とは・・・「御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制」(ガラテヤ人への手紙5章22、23節)です。

勿論、お金や物をはじめ、物質的な「贈り物」も素晴らしいのですが、しかし、「霊的な祝福」すなわち「御霊の実」も、立派な贈り物ですよ～、そしてこちらも大いに価値がありますよ～、ということ言われているのではないかなあ・・・と思います。

一例を挙げるなら・・・人に対して、優しいことばや励ましのことばをかけた、親切に接していったり・・・ということではないだろうか、と思います。そうしていくときに、人の心を喜ばせたり、場合によっては、気持ちを和らげたりすることも可能なのではないかなあ？そしてそれは、まさに神さま（イエスさま）に喜ばれる素晴らしい「贈り物」になるのではないかなあ？と思います。もし、そうかも知れないなあ・・・と、わずかでも思われれば、出来るところからでも、始めていきたいと思えます。



贈り物

詩篇を読む:御顔を隠す

[聖書箇所]詩篇13:1,2

13:1 主よ。いつまでですか。あなたは私を永久にお忘れになるのですか。いつまで御顔を私からお隠しになるのですか。

13:2 いつまで私は自分のたましいのうちで思い計らなければならないのでしょうか。私の心には、一日中、悲しみがあります。いつまで敵が私の上に、勝ちおごるのでしょうか。

上記のことばは、ダビデが言われたことばです。こちらの箇所において、神さまが「御顔」を隠される、ということについて語られています。そして、このことに関して、大事なことをエレミヤ牧師が礼拝でメッセージされていたので、紹介させていただきたいと思います。以下、エレミヤ牧師によるメッセージです。

「あなたは私を永久にお忘れになるのですか。」とありますように、ダビデにとっては永久に御顔を隠されているのでは？と、そんな風に見えました。そのことについて他の箇所も参照したいと思います。

[聖書箇所]詩篇89:46

89:46 主よ。いつまででしょうか。あなたはいつまでも身をお隠しになるのでしょうか。いつまで、あなたの憤りは火のように燃えるのでしょうか。

ここでも、なぜ、御顔を隠されているのか？について言われています。さらに見ていきたいと思えます。

[聖書箇所]詩篇89:33-37

89:33 しかし、わたしは恵みを彼からもぎ取らず、わたしの真実を偽らない。

89:34 わたしは、わたしの契約を破らない。くちびるから出たことを、わたしは変えない。

89:35 わたしは、かつて、わが聖によって誓った。わたしは決してダビデに偽りを言わない。

89:36 彼の子孫はとこしえまでも続き、彼の王座は、太陽のようにわたしの前にあろう。

89:37 それは月のようにとこしえに、堅く立てられる。雲の中の証人は真実である。」

ここではダビデに対しての大きい恵みについて語られています。これは一面の事実です。しかし、他の面もあります。

[聖書箇所]詩篇89:38-45

89:38 しかし、あなたは拒んでお捨てになりました。あなたによって油そそがれた者に向かって、あなたは激しく怒っておられます。

89:39 あなたは、あなたのしもべの契約を廃棄し、彼の冠を地に捨てて汚しておられます。

89:40 あなたは彼の城壁をことごとく打ちこわし、その要塞を廃墟とされました。

89:41 道を通り過ぎる者はみな、彼から奪い取り、彼は隣人のそしりとなっています。

89:42 あなたは彼の仇の右の手を高く上げ、彼の敵をみな喜ばせておられます。

89:43 そればかりか、あなたは彼の剣の刃を折り曲げ、彼が戦いに立てないようにされています。

89:44 あなたは、彼の輝きを消し、彼の王座を地に投げ倒してしまわれました。

89:45 あなたは、彼の若い日を短くし、恥で彼をおおわれました。

上記のことばは、先ほどの89篇46節および13篇のことばに続いています。神さまはダビデに対して突然態度を変えました。神さまは公平なお方です。しかし、ダビデに身を隠された理由があります。それはダビデに罪があった時です。私たちは、神さまとの間に契約があります。ただし、それは、罪を犯さず、正しく歩んで成立するものです。罪を犯したときに問題が起きてきます。つまり、理由無しにこれらのことがダビデに起きたわけではないのです。そして、このことは私たちにも該当します。もし、神さまが御顔を隠されたら大変です。聖霊（神さまの霊）が働かず、あらゆる恵みが消えていくからです。

以上のことをエレミヤ牧師がメッセージされていたのですが、神さまが「御顔を隠す」ということに関して、多少なりともご理解いただけましたでしょうか？優しく、愛の神さまではあるのですが・・・しかし、いかんせん、私たちに「罪」があるので、ときに、神さまは「御顔」を隠されてしまいますので、ぜひ、神さまの前に、正しく歩んでいきたいと思えます。よろしければ、このようなこともご理解いただけると、幸いに思えます。



キリストを信じた体験談 私の間違いによる災難の中にあっても助けて下さる神様の憐れみ ミカエル

私が、中距離の大型トラックの運転手として働いていた時の証しになります。会社は愛知県の大津市の海岸線から割と近い場所にありました。ある時、石川県の自動車部品を加工する工場へ鋼材を運ぶことになりました。その前日、10トン車にそれと同程度の重さの鋼材を積み込み、次の日の早朝に会社を出発しました。車両の総重量は約20トンになります。時は冬でしたが、雪が降っても積もるような雪ではなく、道路の端に溶け残った雪の塊が残る程度で、快晴の天気でもとても軽快に運転していたのです。

岐阜県の北部へ差し掛かった時、ふと、雪も運転に支障をきたす程のことは無い積もり方なので、近道をしようと思い立ち、本道からそれて山道を急ぐことにしました。どんどんと傾斜地を上って行ったのはいいのですが、本道と違い、車の往来が少ない道なので、道路に雪が大分残っていました。それでも路面の雪は薄っすらと積もる程度なので、運転には大丈夫と考えていましたので、そのまま進んで行ったのです。

ですが、進めば進むほど道がだんだんと狭くなっていくのです。さすがにこれはまずい所に来ってしまった！このまま進んで行ったら危ないと感じたので、引き返すことに決めたのです。そして、どこかでUターン出来る場所まで行ってそこから戻ろうと思い、先を行ったのですが、狭い道路でなかなか全長12メートルある車体をうまくUターン出来そうな場所が見当たりません。この先益々道が狭くなって、さらにUターン出来る場所は無くなっていくような気配なのです。そこで思い切って、農家の家先の広場と、その向かい側に車を駐車出来る空き地を見つけたので、頭を農家の家先の空いたスペースに振り、そこからバックして反対側の空き地に車体を収め車を止めたのです。

そしてそこから方向変換して、元々来た道に戻る為にギヤをローに入れ、アクセルを吹かすのですが、タイヤが動きません！いくらエンジンを強く吹かしても、後輪のタイヤがビクとも動かないのです。車を降りて見ると、後輪のタイヤ接地面は5cmほどの雪に覆われていますが、その下はアスファルトではなく、何の舗装もされていないただの土の上でした。私はその

時、シマッタどうしよう、ここからこの車を出るだけ早く脱出させなければ、配達先に間に合わない、下手をすれば牽引車を要請する羽目になったら、それこそ大変だという思いでした。この車の総重量は20トン程あるのです。しかも会社からかなり離れています。牽引車を要請すると、20～30万円程掛かるようなことを以前会社の人から聞いていましたので、本当に焦ってしまいました。

藁をもすがる思いで、神様助けて下さい！そのように心の中で祈っていました。そして、諦めずに出来るだけのことはやってみよう！必ずここから脱出するぞ！そういう思いで後輪の下の土をスコップで掘下げ、車に積んでいた布や厚手のゴムのシートをあてがい、後輪が動くように祈りながら作業をしました。何度か運転席に戻り、アクセルを吹かしてトラックを動かそうと試みるのですが、動きません。でも、諦めることは出来ません。どうにかしなければという思いで、何度かタイヤの下をさらに掘って、布や板やゴムのシートを敷き詰めたのです。やがて私の祈りは神さまに聞かれました。悪戦苦闘の末、災難から脱出することが出来たのです。

私達が誤った方向にあるために、当然の困難に遭遇したとしても、神様に赦しを乞い、助けを祈り求める時に、自分の力では解決出来ない事柄でも、不思議な神の助けが与えられるということを学んだ一件でした。過ちの多い私でも、天の神様は助けて下さるお方です。その方に感謝します。



神さまに、災難から助けていただいた

聖書に関する偉人のことば:G・E・レッツングのことば／お知らせコーナー

<聖書と偉人>

18世紀ドイツの劇作家、思想家。ドイツ国民文学の創造において、目ざましい活躍をした。



宗教は、聖書が説いたがゆえに真理なのではなく、真理なるがゆえに聖書が説いたのである。

<お知らせコーナー>

●聖書贈呈プレゼント！聖書通信講座！

月刊バイブルお読みになっていかがでしたか？少し、聖書に興味がわいてきましたでしょうか？このたび、当教会では聖書贈呈、プレゼントを行っています。この機会に聖書をあなたも読んでみませんか？また、ご希望の方には、聖書通信講座も開設しました。申込者全員へ、贈呈可能です。ご興味がありましたら、ぜひ、お申し込みください。

以下を記載の上、mail:truth216@nifty.com もしくは fax:020-4623-5255 もしくは tel:042-364-2327 へ連絡ください。

- (1) 聖書贈呈に申し込みます。
 - (2) 聖書通信講座に申し込みます。
- *ご希望の番号に○をつけてください。(複数可)

郵便番号:
住所:
名前:



見本

●レムナントキリスト教会「日曜礼拝」のご案内

曜日/時間:毎週日曜日/午前 10:30-12:30,午後 14:00-16:00
場所:東京都、京王線府中駅前、府中グリーンプラザ本館 (tel:042-360-3311)
1Fのエレベーター脇の部屋表示板で、「レムナントキリスト教会」の部屋を確認ください。
どなたでも来会歓迎、入場無料です。tel:042-364-2327, mail:truth216@nifty.com

★教会のHPもあります。

ご興味のある方は、“Yahoo! Japan”で、「府中 レムナントキリスト教会」で検索ください。
尚、レムナントキリスト教会はプロテスタントの教会です。ものみの塔や統一教会とは関係ありません。

☆クリスチャンになったばかりの方やノンクリスチャンの方におすすめのサイト:オリーブ&ミルトス

<http://remnantnotudoi.jimdo.com/>

☆ノンクリスチャン向けへのブログサイト:パンの家

<http://87494333.at.webry.info/>

☆クリスチャンの方におすすめのサイト:エレミヤの部屋

<http://www.geocities.co.jp/Technopolis/6810/>

☆クリスチャン向けへのブログサイト:終末の風

<http://whattopics.at.webry.info/>